

(仮称) まちづくり基本条例 策定に向け

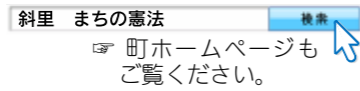
町民の皆さんとの勉強会を行っています。 ■役場 企画総務課企画情報係 ☎23-3131 (内線 213)

「自分たちのまちのことは住民みんなで決め、その決めたことを一人ひとりが責任を持って実行していく」という『まち本来のあるべき姿』の実現に向け、誰がどのような役割を果たすかなどの基本的な理念や原則を定めるものが『まちづくり基本条例』です。

このような、斜里のまちの重要な約束事を決めるわけですから、条例を制定するまでの過程で、町民と行政が協働で知恵を出しあって、一から作り上げたいと考えています。

これらのことから、今年度は、より多くの町民の方にまちづくり基本条例のことを知ってもらおうと、町民ワークショップを企画し、メンバーを募集したところ、27名の応募があり、5月から7月にかけて計5回にわたってワークショップを開催しました。

ワークショップの基本テーマは、『わたしたちのまちの将来を考える』。

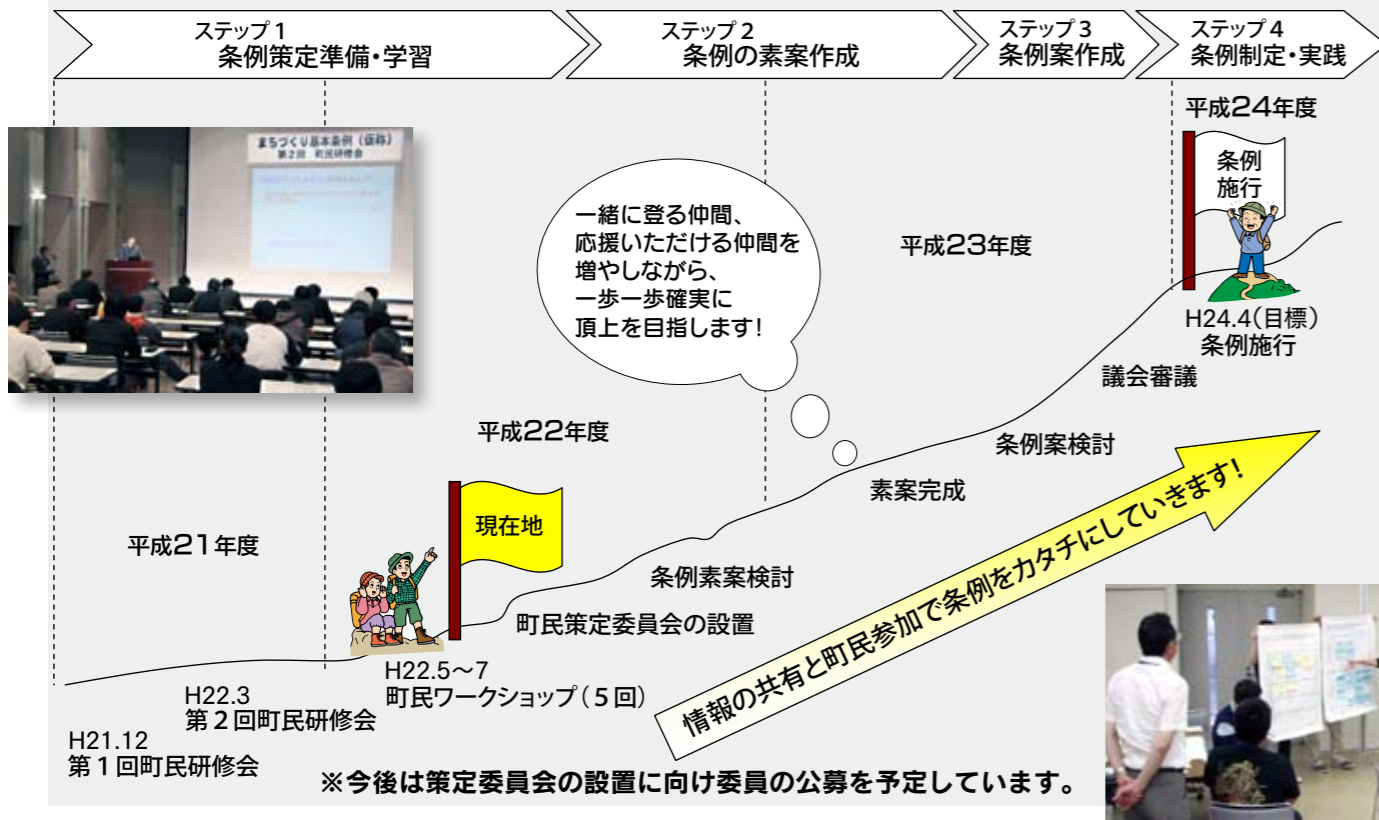


このテーマに基づき、毎回参加者同士で、活発な意見交換が行われ、「世界に誇る自然環境の保全」「地域の良さを再確認する」「産業連携施策の展開」「イベントやスポーツを通じたコミュニティづくり」など、今後の斜里町が取り組むべきことのほか、「計画書や財政用語が行政的でわかりにくい。もっと要点を絞って公表して欲しい」などの行政に対する意見も多くありました。

●町民参加による取り組み状況

年	月日	内容	参加
H21	12/9	第1回町民研修会 ・北海学園大学法学部佐藤克廣教授による講演会。テーマ「町民の手によるまちづくり基本条例をめざして」。	86人
H22	3/23	第2回町民研修会 ・九州大学大学院田中孝男准教授による講演会。テーマ「条例づくりがまちを変える！」	63人
	5/25	第1回ワークショップ ・町民27名(団体推薦20名、公募7名)と町職員によるワークショップ。	35人
	6/2	第2回ワークショップ ・第1、2回は理想のまちづくりに向けたさまざまなアイデアや町民憲章の策定経緯と存在意義、総合計画との関係について理解を深めました。	33人
	6/26	第3回ワークショップ ・第3回以降は基本条例の核となる情報共有、町民参加、協働の視点で今後の行政運営の課題や方向性について話し合いました。	24人
	6/30	第4回ワークショップ	24人
	7/27	第5回ワークショップ	未確定

●策定までの道のり



斜里町のまちづくりと地域医療を考える町民フォーラムが開催されました。

まちづくりを考える上で地域医療が果たすべき役割や現状を学び、さらに、医療関係者、行政、町民がそれぞれの立場から議論し、安心して暮らし続けられる斜里町を一緒に考えました。

開催状況

- 日時
・平成22年7月6日(火)
・午後6時30分~8時45分
- 場所
・ゆめホール知床 公民館ホール
- 参加人数 約230人
- 主催 斜里町・斜里町地域医療協議会

第1部 基調講演

- ・テーマ 『まちづくりにおける地域医療の役割』
- ・講師 札幌医科大学 前医学部長
とうせ のりつぐ
當瀬 規嗣 氏



医師への地域サポートが必要

第1部では、札幌医科大学の當瀬教授を講師に招き、基調講演が行われました。當瀬教授は「最近では、治療が長期に必要な慢性疾患を抱えている人が増加しており、『病気になるってから治療すればいい』という考えではなく、日ごろからの予防が大事」「医師不足は今に始まった話ではなく、都市に医師が集まること、高齢化社会が進み、今後もしばらくこの状況が続く、今までは、医師の超人的な頑張りや地域医療が成り立っていた」と説明。さらに「現在は、地域医療の重要性を認識している若い医師は確実に増えているが、一人で頑張るのは難しい。その医師を受け入れる地域の支えが必要である」と呼びかけました。

また「必ずしも常勤医師にこだわらない考え方や、農業・漁業・観光業を支えるための医療と位置づけ、まちづくりのブランドデザインに医療を組み込むことが大切である」との話しがありました。



第2部 パネルディスカッション

- ・テーマ 『斜里町のまちづくりと地域医療を考える』

- ・パネラー
斜里町国保病院院長 石村 美樹氏
斜里町国保病院副院長 合地 研吾氏
斜里町長 村田 均氏
斜里町議会議長 木村耕一郎氏
地域医療協議会(三師会) 丹羽 修二氏
- ・アドバイザー 札幌医科大学 前医学部長 當瀬 規嗣氏
- ・コーディネーター 地域医療協議会会長 上西 康公氏



◆第2部では、国保病院の院長・副院長をはじめ、町長・議長および町民の代表が議論を行いました。

●パネラーの発言要旨

- ▼村田町長「早急に内科常勤医師をもう一人招へいたいです。また、医療・保健・福祉の連携を強化し、町民の皆さんに、より安心して住んでいただけるようにしたい」
- ▼石村院長「昨年12月に、旭川医大からの内科医師派遣がなくなることを知り、院内で医師が集まり議論した。そこで『町のために病院はつぶせない』という結論に達したが、町民の中には「病院はなくてもいい」という人がいると聞き「なぜ、私たちの気持ちを分かってくれないのか」と考えたこともあった。町民の方には一番近くにある国保病院をぜひ、活用して欲しい」
- ▼合地副院長「内科外来受診者のほとんどが、生活習慣病であり、慢性疾患で長期管理が必要な方である。また、寝たきりの人も多く、今後は、訪問診療を実現したい。地域医療を行う上での主役は住民。一人ひとりが何ができるのかを考えてもらいたい」
- ▼木村議長「ドクターヘリのエリア外地域の解消に向けて努力していきたい」
- ▼丹羽氏「地域医療協議会では、今後も町民の視点から町長に提言を行っていききたい」